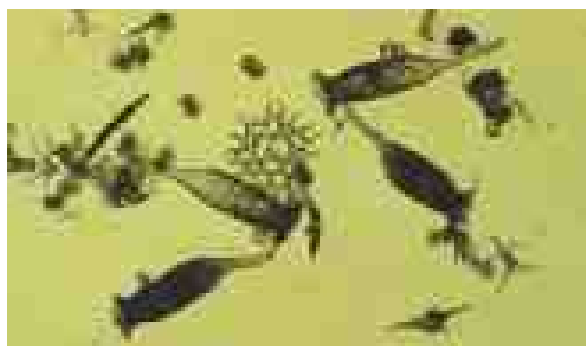


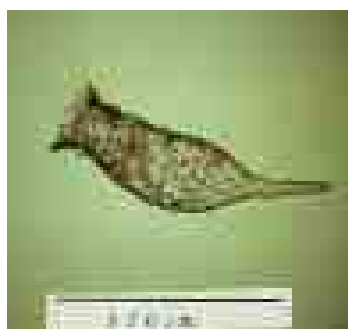
ピワツボカムリ(琵琶湖固有種)



(滋賀県水産試験場の協力により撮影)

この種類は、特殊な形の堅い殻を持ち、殻の中にはアメーバー状の生物が入っています。殻の中央部は少しふくらみ、後は伸びて円筒形の突起となっています。殻の前はロート状に広がってその縁(ふち)は波状になっています。川村多実二氏によって命名されました。通常は琵琶湖の湖底に生息し、8月～11月に水面付近に現れ、湖の全面に分布するとされていました。

滋賀県水産試験場の調査では、1963年9月18日に北湖で大量に分布していたことが確認されていますが、滋賀県立衛生環境センターの調査では、1981年10月に琵琶湖大橋の北の地点で確認して以来、現在まで観察されていません。もし、この種類についての情報がありましたらご連絡下さい。



〈お問い合わせ〉

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

Tel : 077-526-4800 Fax : 077-526-4803 メールアドレス : info@lberi.jp

Copyright (C) Lake Biwa Environmental Research Institute. All Rights Reserved.